

# 芸 術 (書道 I)

発 行 者			教 科 書 の 記 号	判型	総ページ数	検 定 済 年
番 号	名 称	略 称	番 号			
2	東京書籍	東書	書 I 701	A 4	160	令和 3 年
6	教育図書	教図	書 I 702	A 4	120	
			書 I 703	A 4	50	
17	教育出版	教出	書 I 704	A 4	158	
38	光村図書出版	光村	書 I 705	A 4	158	

※ 「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

## 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

書道 I		冊数	5冊
発行者の略称・ 教科書の番号	東書701 教図702・703 教出704 光村705		

## 2 学習指導要領における教科・科目の目標等

### 【芸術の目標】

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

### 【書道 I の目標】

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

### 【書道 I の内容及び内容の取扱い】

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
<p>A 表現 表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 漢字仮名交じりの書 ア 次の (ア) から (ウ) までについて構想し工夫すること。 (ア) 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 (イ) 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現 (ウ) 名筆を生かした表現や現代に生きる表現</p> <p>イ 次の (ア) 及び (イ) について理解すること。 (ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり (イ) 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり</p> <p>ウ 次の (ア) 及び (イ) の技能を身に付けること。 (ア) 目的や用途に即した効果的な表現 (イ) 漢字と仮名の調和した線質による表現</p> <p>(2) 漢字の書 ア 次の (ア) 及び (イ) について構想し工夫すること。 (ア) 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成</p>	<p>(1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、「A表現」及び「B鑑賞」相互の関連を図るものとする。</p> <p>(2) 内容の「A表現」の (1)、(2) 及び (3) の指導については、それぞれア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の (1) の指導については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導する。</p> <p>(3) 内容の「A表現」の (1) については漢字は楷書及び行書、仮名は平仮名及び片仮名、(2) については楷書及び行書、(3) については平仮名、片仮名及び変体仮名を扱うものとし、また、(2) については、生徒の特性等を考慮し、草書、隸書及び篆書を加えることもできる。</p> <p>(4) 内容の「A表現」の (2) 及び (3) については、臨書及び創作を通して指導するものとする。</p> <p>(5) 内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫する。</p> <p>(6) 内容の「A表現」の指導に当たっては、篆刻、刻字等を扱うよう配慮するものとする。</p>

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
<p>(イ) 意図に基づいた表現            イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。            (ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり            (イ) 書体や書風と用筆・運筆との関わり            ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。            (ア) 古典に基づく基本的な用筆・運筆            (イ) 古典の線質、字形や構成を生かした表現</p> <p>(3) 仮名の書            ア 次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。            (ア) 古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成            (イ) 意図に基づいた表現            イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。            (ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり            (イ) 線質や書風と用筆・運筆との関わり            ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。            (ア) 古典に基づく基本的な用筆・運筆            (イ) 連綿と単体、線質や字形を生かした表現</p> <p>B 鑑賞            (1) 鑑賞            ア 次の(ア)及び(イ)について考え、書のよさや美しさを味わって捉えること。            (ア) 作品の価値とその根拠            (イ) 生活や社会における書の効用            イ 次の(ア)から(エ)までについて理解すること。            (ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり            (イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化            (ウ) 漢字の書体の変遷、仮名の成立等            (エ) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態</p> <p>[共通事項]            ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。            イ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。</p>	<p>(7) 内容の「A表現」の指導に当たっては、中学校国語科の書写との関連を十分に考慮するとともに、高等学校国語科との関連を図り、学習の成果を生活に生かす視点から、目的や用途に応じて、硬筆も取り上げるよう配慮するものとする。</p> <p>(8) 内容の「B鑑賞」の(1)のイの(ウ)の指導に当たっては、漢字仮名交じり文の成立について取り上げるようにする。</p> <p>(9) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。なお、内容の「B鑑賞」の指導に当たっては、作品について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする。</p> <p>(10) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、書道の諸活動を通して、生徒が文字や書と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫する。</p> <p>(11) 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、書に関する知的財産権について触れるようにする。また、こうした態度の形成が、書の伝統と文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。</p>

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 「表現」で「漢字仮名交じりの書」・「漢字の書」・「仮名の書」を扱うページ数と割合	「内容」の《A表現》	ページ、%
b 「表現」で「篆刻、刻字等」を扱うページ数と割合	「内容の取扱い」（6）	ページ、%
c 「鑑賞」で「生活や社会における書の効用」を扱うページ数と割合	「内容」の《B鑑賞（1）鑑賞ア（イ）》	ページ、%
d 「鑑賞」で「日本及び中国等の書の伝統と文化」を扱うページ数と割合	「内容」の《B鑑賞（1）鑑賞イ（イ）》	ページ、%
e 発展的な内容を取り上げている箇所数	新学習指導要領 総則	個

##### イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項のd及びeとの関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

d 「鑑賞」に関して「日本及び中国等の書の伝統と文化」について取り扱っている事項

e 発展的な内容の概要

\* 防災や自然災害の扱い

\* オリンピック、パラリンピックの扱い

###### ② 調査対象事項を設定した理由等

・ 新学習指導要領に、「鑑賞」について「次の(ア)から(エ)までについて理解すること。(中略)(イ)日本及び中国等の文字と書の伝統と文化」とされているため、「鑑賞」に関して「日本及び中国等の書の伝統と文化」について取り扱っている事項を調査する。

・ 新学習指導要領に、「内容の範囲や程度等を示す事項は、当該科目を履修する全ての生徒に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができる」とあるため、発展的な内容を取り上げている箇所について調査する。

\* 防災や自然災害について、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。

\* オリンピック、パラリンピックについては、東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、その扱いについて調査する。

#### (2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫

② ユニバーサルデザインの視点

③ デジタルコンテンツの扱い

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】(書道 I)

調査項目			a		b		c		d		e	
			「表現」で「漢字仮名交	「表現」で「篆刻、刻字	「鑑賞」で「生活や社会	「鑑賞」で「日本及び中	「表現」で「漢字仮名交	「表現」で「篆刻、刻字	「鑑賞」で「生活や社会	「鑑賞」で「日本及び中	「表現」で「漢字仮名交	「表現」で「篆刻、刻字
発行者	教科書番号	教科書名	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	個	(全体のページ数)
東書	701	書道 I	117	73.1	8	5.0	12	7.5	85	53.1	0	160
教図	702 703	書 I 書 I プライマリーブック	134	78.8	6	3.5	17	10.0	115	67.6	0	170
教出	704	書道 I	119	75.3	6	3.8	10	6.3	98	62.0	1	158
光村	705	書 I	121	76.6	16	10.1	13	8.2	97	61.4	0	158
平均値			122.8	76.0	9.0	5.6	13.0	8.0	98.8	61.1	0.3	162

- ・aの割合については、全体のページ数に対する該当のページ数の割合を、小数第2位を四捨五入した値である。
- ・bの割合については、全体のページ数に対する該当のページ数の割合を、小数第2位を四捨五入した値である。
- ・cの割合については、全体のページ数に対する該当のページ数の割合を、小数第2位を四捨五入した値である。
- ・dの割合については、全体のページ数に対する該当のページ数の割合を、小数第2位を四捨五入した値である。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 東書・701】(書道 I)

d 「鑑賞」に関して「日本及び中国等の書の伝統と文化」について取り扱っている事項		e 発展的な内容の概要
事項	内容	
漢字の成立と変遷	漢字の成り立ちと変遷を鑑賞	(0)
楷書の特徴	楷書の特徴、三国時代、北魏時代、唐の四大家の楷書を鑑賞	
行書の特徴	行書の特徴、王羲之「蘭亭序」、顔真卿「争坐位文稿」、空海「風信帖」等を鑑賞	
草書の特徴	草書の特徴、智永「真草千字文」等を鑑賞	
隷書の特徴	隷書の特徴、「曹全碑」等を鑑賞	
篆書の特徴	「泰山刻石」を鑑賞	
仮名の成立	万葉仮名、草仮名、女手を鑑賞	
連綿	伝藤原行成「蓬萊切」、伝紀貫之「高野切第三種」の鑑賞	
漢字仮名交じりの書の変遷	漢字の伝来、仮名の成立から現在に至る書の変遷を鑑賞	
(9)		

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 教図・702・703】(書道 I)

d 「鑑賞」に関して「日本及び中国等の書の伝統と文化」について取り扱っている事項		e 発展的な内容の概要
事項	内容	
漢字と仮名で表す	中国における漢字の書体の変遷、日本における仮名の誕生を鑑賞	(0)
篆書	原初の漢字、近現代の芸術表現(呉昌碩、青山杉雨)を鑑賞	
隷書	篆書から隷書へ、隷書の様式、近世・現代の芸術表現(鄧石如、松井如流)を鑑賞	
草書	隷書の簡略化、草書の一般化と洗練、近世・現代の芸術表現(傅山、手島右卿)を鑑賞	
行書	隷書の速書き、行書の一般化と洗練、近世・現代の芸術表現(王鐸、赤羽雲庭)を鑑賞	
楷書	楷書の成立、リズム、楷書の洗練と書風の展開、近世・現代の芸術表現(趙之謙、西川寧)を鑑賞	
仮名の書	真仮名・男手・万葉仮名、草仮名、片仮名、女手・平仮名の鑑賞	
漢字仮名交じりの書	9世紀の古文書、和歌(古今和歌集)、土佐日記、良寛書簡の鑑賞	
書の作品制作	古典をもとにした表現を鑑賞	
(9)		

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 教出・704】(書道 I)

d 「鑑賞」に関して「日本及び中国等の書の伝統と文化」について取り扱っている事項		e 発展的な内容の概要
事項	内容	これまで学習してきた漢字や仮名の理解を深め、名筆を学び、表現に応用する。
書体の変遷	中国で生まれた漢字の様々な書体、日本で生まれた仮名の書体を鑑賞	
楷書の学習	唐の四大家など、様々な楷書を鑑賞	
行書の学習	行書の特徴、王羲之「蘭亭序」、空海「風信帖」等を鑑賞	
篆書の学習	篆書の特徴、「泰山刻石」を鑑賞	
隸書の学習	隸書の特徴、「曹全碑」、「居延漢簡」等を鑑賞	
草書の学習	草書の特徴、「書譜」を鑑賞	
漢字の書の制作	「清」「光」の楷書、行書、篆書、隸書、草書を鑑賞	
仮名の成立と発達	漢字の伝来と仮名の成立、男手、草仮名、女手、片仮名を鑑賞	
連綿	伝藤原行成「蓬萊切」、「高野切第三種」の鑑賞	
(9)		(1)

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 光村・705】(書道 I)

d 「鑑賞」に関して「日本及び中国等の書の伝統と文化」について取り扱っている事項		e 発展的な内容の概要
事項	内容	
漢字の変遷とさまざまな書体	様々な書体(篆書、隸書、草書、行書、楷書)を鑑賞	
文字の造形を学ぶ 楷書	唐の四大家の楷書を鑑賞	
文字の造形を学ぶ 行書	王羲之「蘭亭序」、空海「風信帖」、日本の三筆・三跡の書などを鑑賞	
文字の造形を学ぶ 草書	智永「真草千字文」等を鑑賞	
文字の造形を学ぶ 隸書	「曹全碑」を鑑賞	
文字の造形を学ぶ 篆書	「泰山刻石」を鑑賞	
仮名の成立と種類	万葉仮名、草仮名、女手を鑑賞	
仮名の書	伝藤原行成「蓬萊切」、伝紀貫之「高野切第三種」の鑑賞	
受け継がれる仮名の書	伝小野道風「本阿弥切本古今和歌集」・「継色紙」、伝紀貫之「寸松庵色紙」、伝藤原行成「升色紙」の鑑賞	
漢字仮名交じりの書	近現代の芸術表現(金子鷗亭、高村光太郎、會津八一、町春草、青木香流、日比野五風)の鑑賞	
文士の書を見に行こう	正岡子規「絶筆三句」、樋口一葉「たけくらべ」、三好達治「雪」、芥川龍之介「娑婆を逃れる河童」、棟方志功「歎喜モ」、林芙美子「花のいのちはみじかくて」、宮沢賢治「雨ニモマケズ」、太宰治「人間失格」を鑑賞	
(11)		

「別紙2-2」 【防災や自然災害の扱い】（書道 I）

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方 (本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	701	書道 I	無			
教図	702 703	書 I 書 I プライマリーブック	有	写真(P7)	防災 自然災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災で亡くなった方へのメッセージ</li> <li>・海外から日本の東日本大震災に対するメッセージ</li> <li>・熊本地震の被災者へ送られる支援物資が入った段ボールのメッセージ</li> <li>・東日本大震災の復興を祈るメッセージ</li> </ul>
教出	704	書道 I	無			
光村	705	書 I	無			



「別紙2-3」【オリンピック、パラリンピックの扱い】(書道 I)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方 (本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	701	書道 I	無			
教図	702 703	書 I 書 I プライマリーブック	無			
教出	704	書道 I	無			
光村	705	書 I	無			

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(書道 I)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
東書	701	書道 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作の活動では、見直しをもって学習を進められるよう、学習過程を明確にした構成となっている。また、鑑賞の活動では、協働的な学びができるよう、感じたことや考えたことを伝え合う言語活動を取り入れている。</li> <li>・主体的に取り組めるように手順を示し、対話的な学びができるように考えたことを説明するという言語活動を取り入れている。</li> <li>・書を通して社会に参画する意義を考えられるよう、身の周りにある様々な書が掲載されている。</li> <li>・裏表紙にユニバーサルデザインに関する記載がある。</li> <li>・二次元コードからデジタルコンテンツを参照できる。</li> </ul>
教図	702 703	書 I 書 I プライマリーブック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者が主体的に学ぶ力を養うことができるよう、段階的に教材を配列している。</li> <li>・課題解決に向けて協力したり、助言し合ったりする活動などが設けられている。</li> <li>・身の周りの文字や書に関心を高められるよう、目的、場面に応じた表現の仕方や、毛筆のもつ魅力や意義、効果などについて考えられる構成となっている。</li> <li>・裏表紙にユニバーサルデザインに関する記載がある。</li> <li>・二次元コードからデジタルコンテンツを参照できる。</li> </ul>
教出	704	書道 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品制作では、学習者が意欲的・主体的に学習できるよう学習過程が明確になっている。</li> <li>・漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書では、作品制作の手順が示されている。また、題材の選定から練習、推敲など、作品の発表までの解説がある。</li> <li>・身の周りの書への関心を高められるよう、日常生活に関わる礼状や履歴書の書き方などが掲載されている。</li> <li>・裏表紙にユニバーサルデザインに関する記載がある。</li> <li>・二次元コードからデジタルコンテンツを参照できる。</li> </ul>
光村	705	書 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に学ぶことができるよう、好きな古典を選んだり、古典を比べたり、古典のイメージを言語化したりするなどの活動が設定されている。</li> <li>・各領域の「創作」では、構想から制作、相互鑑賞に至る手順が三つのステップで示されている。</li> <li>・学習内容を日常に生かすことができるよう、姿勢・執筆など基礎知識をまとめた「書写・書道の基本」、書式を整理した「生活の中の書」が配置されている。</li> <li>・裏表紙にユニバーサルデザインに関する記載がある。</li> <li>・二次元コードからデジタルコンテンツを参照できる。</li> </ul>